

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月17日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892200015		
法人名	有限会社 茨城まごころ介護サービス		
事業所名	グループホーム ころ鹿嶋館	ユニット名	ひまわり
所在地	〒311-2223 茨城県鹿嶋市林1020-3		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0892200015-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月28日	評価機関 決定日	平成26年6月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりとゆったり関わりながら、利用者ができることはやっただくようにして、得意としていることなどを把握し、生活の中で役割を持ち一人ひとりが生き生きと生活ができるよう支援しています。また広々としたデッキで思い思いに外気浴を楽しんだり、庭には家庭菜園を作り、野菜や草花を育て、収穫した野菜などはおかずとして食卓に出したりしています。またおやつを一緒に作ったりもしています。利用者同士が助け合い笑顔のある生活空間を作り、地域との関わりを深めながら明るく生活しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

代表者が訪問介護事業所や通所介護事業所を運営する中で、「利用者が快適に暮らせる居場所づくりがしたい」という熱い思いを持って3年前に開設した事業所である。  
代表者は地域密着型サービス事業所のあるべき姿をしっかりと捉える中で、ハード面のみならずソフト面でも充実した事業所づくりをしており、開設して間もない中で地域との連携などに精力的に取り組んでいる。  
職員は代表者の目指すところをよく理解し、「利用者の生活に変化が生じてきた」などの遣り甲斐を感じながらケアに努めており、利用者はその支援を受けながら役割意識を持ちつつゆったりと暮らしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念に基づいたケアを目指して全職員が取り組んでいる。	「尊厳ある生活が、その人らしさを大切に笑顔でゆったりおくれるように、地域と共に暮らしていきます」を事業所独自の理念として掲げている。 新任研修や月1回のミーティングで理念を確認するとともに、玄関や休憩室に理念を掲示して全職員で共有している。 職員は利用者一人ひとりの思いを大切に、ゆったりとした生活ができるよう支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の『うえるサロン』への参加や、鹿嶋市の『かしま祭り』など地域イベントへの参加をしている。 また定期的にボランティア（大正琴、ハーモニカ）の方々との交流している。	利用者や職員は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜のお裾分けを頂いたりするとともに、地域で開催する集会所での「ウェル西さん」に参加し、昼食や踊り、ゲームを楽しんでいる。 ハーモニカ演奏や大正琴演奏のボランティアが来訪する中で、利用者が一緒に歌を唄うなどで交流している。 管理者は幅広い専門知識を活かして、地域住民の困りごと相談にも対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域とのイベントへ参加することで、入居者の方たちと触れ合ってもらい理解を深める。 また今後職場体験やヘルパーの実習生の受け入れを予定。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れ、業務の改善に取り組んでいる。	家族等の代表や市職員、市社会福祉協議会職員、自治会の代表者、民生委員で運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、入居状況や行事結果、外部評価結果などを報告するとともに、利用者の緊急時受け入れ医療機関や各種ごみの廃棄方法などの懸案事項を話し合っている。 管理者は、「今回、心臓疾患で亡くなった利用者への対応を踏まえて、AED（自動体外式除細動器）を設置すべきである」との意見を受け、事業所内にAEDを設置している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密には連絡を取っていないが、運営推進会議で出された意見などを取り入れサービスの向上に活かされている。	管理者は、市に直接出向いて担当者に事業所の運営状況を報告するとともに、肺炎球菌ワクチンの接種助成や介護度が改善した利用者の受け入れ先などについて相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束』についての勉強会を開催し、理解に努めている。	「身体拘束のない介護のための指針」マニュアルを作成し、指針に基づいた研修を年に1回実施するとともに、やむを得ず身体拘束をする場合に備えて経過記録などの書類を整備している。 一人で外出する利用者の安全確保という点で玄関を施錠しているが、食堂兼居間から外デッキにつながるガラス戸を解錠し、見守りをしながらいつでも外に出られるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者の虐待』についての勉強会を開催し、注意する点を学んで防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	会議等の中で『権利擁護』について勉強し、理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事細かに説明することに心掛け、家族に理解と納得を得られるようにしている。特に料金に関しては細かく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段の関わりの中で、また家族とは面会に来られた時や運営推進会議に参加して頂いた時に、意見や要望を聞き出せるようにしている。面会が難しい家族に対しては、年2回書面にて要望・意見を汲み上げている。	管理者は年2回家族等にアンケートを実施し、アンケート結果や改善策を家族等に伝えている。 利用者や家族等から出た「カラオケ機材を購入してほしい」や「手洗いからお湯が出るようにしてほしい」との要望を受け、機材購入や設備の改善をしている。 職員は利用者との日常の関わりの中で意見や要望の汲みあげに努めるとともに、家族等との面会時に「意見や要望を遠慮なく話してください」と呼びかけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見や提案を出してもらい話し合いをしている。また個人面談を行い、職員の意見等を聞き出しながら仕事がしやすい環境作りに取り組んでいる。	管理者は月1回のミーティングや毎日の申し送り時に意見や提案を聞くほか、夜勤時に自ら介護現場に入って職員とコミュニケーションを図り、職員からの意見等の汲みあげに努めている。 足元が寒いという職員の意見を受け、キッチンやリビングにホットカーペットを設置しているほか、勤務変更や研修参加の要望を聞き、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自由に有給休暇取得ができるようにしている。また残業にならないよう定時帰宅を促している。職員の経験年数も加味しながら研修会に参加できるようにしている。 個々の目標作りや評価によるやりがい作りを実施予定。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修マニュアルを用いて教育・指導を行っている。また経験に応じて必要と思われる研修・講習会等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近辺のグループホームとの交流をはかり、職員が訪問したり受け入れたりして良い所を吸収しあえるように努め、サービスの質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ケアプラン等を基に積極的に関わり利用者を理解するようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で、家族の介護に対する不安や思いを聞き出し、常に家族側の立場として色々な相談をしていただけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に不安に思っている事を汲み取り、その改善に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のなつかしい歌を教えてもらったり、時には利用者の方が職員に気をつけていただいたりしながら生活を共にしている。 畑作りや家事においても役割を持ってもらい、共に支えあう暮らしをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や諸行事に参加して頂き、その時に家族と一緒に食事や演芸を楽しんだりして、家族との絆を大切にしている。また家族交流会においては、家族と今後について話し合いの場をもうけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が面会に来て下さった際に、ゆっくり会話が出来るような環境を提供している。本人が慣れ親しんだ店に買い物や外食に出掛けたりしている。	職員は利用者の知人や友人が来訪した際に、居室でお茶を飲みながらゆっくりと話ができるようテーブルや椅子を用意するなどの配慮をしているほか、馴染みの蕎麦屋や和菓子屋と一緒に出かけているが、馴染みの人や場の把握結果を記録に残し、全職員で共有するまでに至っていない。	利用者がその人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握することが重要であることを再認識し、センター方式の「私の支援マップシート」などを参考にしながら把握した結果を記録に残し、全職員で共有することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション・家事を通し、利用者同士が声を掛け合ったり、一緒に行くことで楽しめたり、孤立しないよう声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了（長期入院・死亡等）しても、御見舞いにいたり、暑中見舞い、年賀状のやりとりをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話のなかから、希望や意向などを聞き出せるようにし、内容によって随時職員間で話し合い、本人が望むような『そのひとらしい生活』が送れるよう話し合っている。また必要に応じて、家族・本人を交えて話しを出来る場をもうけて、希望・意向も聞けるようにしている。	職員は、利用者の表情やしぐさのほか、夜勤時に聞いたつぶやきなどから思いや意向を推測し、申し送りノートに記録するように努めているが、日常の記録に埋もれがちで明確な記録として残すまでに至っていない。 思いや意向の把握が困難な利用者については、家族等との話し合いを通して汲み取るように努めている。	利用者や家族等の思いや意向の把握が、ケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映させることが望まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人にこれまでの生活歴などを聞き出し、なるべく今までの生活リズムで過ごせるように、コミュニケーションを深めると共に、今までの経緯の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力（出来る事）を把握し、出来る事をしていただいている。また各自の心身状態の維持向上を目指し本人にあわせた運動等を行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での気付き、本人・家族の意見や意向を基にアセスメント・カンファレンスを行い介護計画を作成している。一定期間後にモニタリングを行い介護計画を見直している。	計画作成担当者を兼務する管理者が作成した介護計画案を基に、全職員が参加する会議において、家族等の要望や主治医の意見などを参考にしながら検討し、利用者の役割意識を損なうことのない介護計画を作成している。 介護計画の定期的な見直しにあたって、その根拠となるモニタリングや評価の記録を残すまでに至っていない。 利用者が骨折したなど、状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	作成→実行→評価→見直しというケアマネジメントの確立に向けて、介護計画のモニタリングや評価結果を記録として残すことが望まれる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化によって、日々の様子、記録を振り返りながら、職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の様子や本人の言葉を記録に残し、職員全体が利用者一人ひとりの情報を共有できるようにしている。その情報の中からその人に合ったニーズを見つけ出し支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かしま祭りや鹿島神宮参拝などに行き、楽しんでいる。お花見・菊まつりなど、季節行事や夜間イベントの楽しめる機会を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認した上で、かかりつけ医療機関を受診している。また、かかりつけ医師の指示の基、定期的な健診も受けている。	協力医療機関以外への受診を希望する場合は家族等の付き添いを基本としているが、家族等の付き添いが困難な場合には職員が付き添うなどの支援をしている。 家族等以外には受診結果を伝えないという医師の意向で、受診に付き添った職員が医師から受診結果を直接聞けない場合は、医師に受診結果を訊ねてほしい旨を家族等に伝えている。 職員は受診に付き添う家族等に対して、医師に伝える情報としてバイタルサインなどを記したメモを手渡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会に行き、看護師から病状の説明を聞くようにし、早期退院に向けた連絡をはかっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いながら、状況に応じ職員間で対応方針について検討している。また、主治医に状況を報告し指示を仰いでいる。ターミナルケアについての勉強会を開催し、チームケアを取り組むよう努めている。	重要事項説明書に、「看護師を配置できた場合に、……看取り介護を希望される利用者、家族の支援を最後の時点まで遂行します」という条項があるが、看護師の配置ができない状況を踏まえて、現段階では看取り介護には対応しないという方針である。方針を利用者や家族等に説明して同意を得るまで至っていない。	事業所と家族等との意向がズレたまま重度化の時期を迎えることのないよう、現状では看取りができないという方針を早急に利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルも基に看護師の指導を受けている。また、体調が急変した時は看護師に連絡し、状況により駆けつけられる体制も出来ている。日常の中で応急手当や急変時の初期対応について看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している（3ヶ月に1回）。実施後の反省点等を記録し、今後の訓練に活かすようにしている。区長さんを通し、地元消防団との協力をえられるようにしている。	避難訓練や連絡体制の確認訓練などを年4回実施しているが、夜間想定避難訓練を実施するまでには至っていない。避難訓練記録を残しているが、避難限界時間や完了時間を把握するまでには至っていない。運営推進会議などを通して、地元消防団を始めとして地域住民に避難訓練への参加や協力を呼びかけているが、実現するまでには至っていない。災害に備えて食糧や飲料水などのリストを作成し、賞味期限を管理している。	夜間想定避難訓練を実施するなかで、避難限界時間内の避難完了を目指した課題の明記と、解決に向けた確実な取り組みが望まれる。地域住民への避難訓練参加を引き続き働きかける中で、協力体制の早期構築が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対する対応が、職員間で共有できるよう、ミーティングで話し合い、プライバシーに配慮した対応をしている。入居者の希望により、自室ドア窓にプライベートカーテンを取り付け配慮している。	職員は利用者を「ちゃん付け」で呼ばないことを基本にするとも、排泄誘導の際には周囲に気付かれないように小声で話しかけたり、居室ドアの小窓にプライベートカーテンを設置したりしている。個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や、行動または発言に注意しながら、入居者への声掛けを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重しながら、利用者のペースに合わせ、囲碁や塗り絵、編み物やカラオケ、買い物など、工夫した支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで着て楽しんだり、時には職員と一緒に買い物に出かけ本人の好きな服を買ってきたりしている。また女性の入居者には外出時やボランティア来訪時、希望に合わせて化粧を行ったり、声掛けを行ったりしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の用意をしたり、洗い物や食器拭きをしてくださる。またホームの畑で採れた農作物と一緒に収穫し調理して食べたりもしている。また食の細かい方には、決まったメニューではなく、本人の食べやすい物を提供したり、嗜好を本人や家族に聞いて考慮した個別のメニューも作っている。	職員は利用者と一緒に献立を検討する中で、自家菜園で採れた旬の野菜やお裾分けで頂いた食材を献立に追加するとともに、利用者一人ひとりの嚥下能力にあった食事を提供している。 利用者の誕生日や季節の行事の時には、特別食を提供している。 利用者と職員は一緒に同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をするとともに、利用者は職員の支援を得ながら調理や食事の準備、後片付けなどを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や体重、排尿量によって食事や水分の摂取量の調整をしている。また体調によっては、お粥・刻み食などに変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアができるように見守りや声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレに行かれた時はプライバシーを損ねないように、声掛けや見守りを行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して前誘導をするとともに、「落ち着きがなくなる」などの排泄サインを見逃さずに声かけをすることにより、トイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材を利用したりしている。また軽い運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めているが、入浴日以外でも本人の体調や希望に沿った入浴が出来るよう支援している。利用者の希望を聞き、一番湯や終い湯、変わり湯、夜間浴、足浴などの工夫をしている。	週2回日中の入浴を基本としており、夜間帯を除いて利用者の希望にそった入浴支援に努めている。 入浴剤を使用するほか、柚子湯や菖蒲湯などで季節を感じながら入浴ができるように工夫している。 入浴を拒む利用者に対しては無理強いをせず、日を変えるなどして入浴支援をしている。	家庭的な環境という観点から、夜間帯の入浴についても実現に向けて話し合うことが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にシーツ交換・布団干しを行い清潔保持に努めている。また利用者の体調に合わせた休息を設けている。本人が「休みたい」と訴えがあった場合には和室や居室で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬している。また職員が入居者の服薬について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、畑仕事など役割を持ってもらい、自信を持って生活できるよう支援している。また、季節に沿った外出行事を楽しんだり、昔手作りした食品作り（切り干し大根、甘酒など）を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物と一緒に出掛けたり、天気の良い日は外食やドライブに出掛けたりしている。また散歩した時には近隣在住の方々との挨拶や会話を楽しんだりしている。	職員はほぼ毎日の散歩や事業所のウッドデッキでの外気浴のほか、外食や買い物、花見、菊祭り見物、商店街のイルミネーション見物などの支援をしている。 月1回の外食は、車いすの利用者も含めて皆の楽しみの一つとなっている。 職員は外出ボランティアの協力を得ながら、服のリメイク作品のファッションショーへの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はお金の管理が困難な方が多い為、必要なものや本人が希望するものは施設で一時立替え、職員と一緒に買い物に行き、支払いできるような支援している。ただし紛失の危険性を説明した上で、希望する利用者（家族同意の基）は所持している。近くのお店で使えるよう付添や外出時の買い物時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が家族に電話したい時に電話できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関等に季節の花を飾っている。また、季節感のある小物なども置いている。和室・ソファでゆっくりしながら談話しながら過ごしている。玄関・リビングには入居者のご家族様の書いた絵画を飾ってあり落ち着いた雰囲気演出している。天気の際はデッキに出て日光浴を楽しんでいる。	利用者が自然環境を満喫しながら外気浴ができるよう広々としたオープンデッキを備えている。 「利用者に快適な居場所を提供したい」という管理者の思いが込められた居間兼食堂や廊下は天窓があり、広々した明るい空間となっている。 居間兼食堂の一角にアコーディオンカーテンで仕切ることができ、かつ腰かけ易いように高さを調整した小上がりの和室を設けている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンデッキが広いので、車椅子でも自由にデッキに出入りする事も出来、好きな時に外の空気を吸ったり気分転換をはかれる。和室、テーブル、ソファ、一人掛けソファを利用し、気の合った方同士、または一人になれるような空間作りを行っている。和室には趣のあるテーブルを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、本人の使っていたイスや布団等を持ち込んで使用していただいている。また、使い慣れ親しんだ鏡台やタンス等も置いたりしている。	利用者は、職員の支援を受けながら使い慣れた筆筒や籐椅子のほか、ラジオやテレビを持ち込むとともに、家族等の写真を飾っている。 備え付け耐震ラッチ付衣装ケースや天井に空気清浄器を設置するなど、利用者の安全性や快適性を重視した居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じて居室をトイレの近い場所にしたり、本人が自室を分かるよう入口に大きな名前札を設置している。リビング出入口に安全の為、ガラスがあることがわかるよう背丈に合わせた飾りテープを使用している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ鹿嶋館

作成日 平成26年7月7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	利用者がその人らしく生きるためには、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を再認識し、センター方式の「私の支援マップシート」などを参考にしながら把握した結果を記録に残し、全職員で共有することが望まれる。	馴染みの人や場所を把握し内容を記録に残し、全職員で共有する。	①センター方式のシートを参考にしながら、利用者と御家族または地域の方との係わりから把握した結果を記録に残す。 ②全職員で情報を共有する。 (ミーティング等を活用)	10月末
2	23	利用者や家族等の思いや意向の把握が、ケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映させることが望まれる。	利用者や家族等からの思いや意向を定期的に聞きだし、記録として残し介護計画に反映させる。	①利用者や家族等の思いや意向を記録にし、定期的にとまとめる。 ②ミーティング等において、まとめた意向等について話し合い、全職員での共有と介護計画に反映させる。	10月末
3	26	作成→実行→評価→見直しというケアマネジメントの確立に向けて、介護計画のモニタリングや評価結果を記録として残すことが望まれる。	介護計画の定期的な見直しにあたり、モニタリングや評価の結果を記録を残す。	①全職員に対し、ケアマネジメントの意味と必要性の勉強会を開催する。 ②介護計画を元にモニタリングを定期的実施。 ③評価結果を解りやすく記録する。	10月末
4	33	事業所と家族等との意向がずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、現状では看取りができないという方針を早急に利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。	現状での看取りができない事を家族に説明し書面にて同意を得る。	①利用者や家族に看取りができない理由を説明する。 ②書面での同意書をいただく。	8月末
5	35	夜間想定避難訓練を実施するなかで、避難限界時間内の避難完了を目指した課題の明記と、解決に向けた確実な取り組みが望まれる。地域住民への避難訓練参加を引き続き働きかける中で、協力体制の早期構築が望まれる。	夜間想定と地域住民が参加した避難訓練を実施したうえで、現状の問題点等を把握し対策まで行う。	①夜間想定避難訓練を実施する。 ②地域住民の方に参加して頂けるようはたらきかけをする。	10月末
6	45	家庭的な環境という観点から、夜間帯の入浴についても実現に向けて話し合うことが望まれる。	入居者の希望があれば、夜間でも入浴ができるようにする。	①夜間入浴を可能にする場合の現状の問題点等を出して検討する。	10月末